

図書館 forum

図書館とラーニングアドバイザー……………	田村 信介	1
スモールワールド現象……………	老木 成稔	3
越前の近世を解き明かす「小島家文書」の魅力 ……………	長谷川裕子	5
■福井大学附属図書館所蔵の古典籍(7)		
西門蘭溪『菱実記聞』—勝山藩小笠原家史料の考証— ……………	膽吹 寛	7
■私の推薦書		
「光子」の奇妙な振舞い —ミクロの世界の量子力学— ……………	橋本 貴明	9
L.A. オススメ本 —理解!好奇心!+αのかしいスパイス— 斎木健太・佐藤 吏・平 貴仁・中尾義則・田中侑己・西川真代 ……		10
ディスカバリー・サービスで学術情報を探す……………		15
附属図書館展示企画2012 ……………		17
必見!「医学部 NOW!!!」 in 医学図書館 ……………		18

図書館とラーニングアドバイザー

附属図書館長 田村 信介

たむら・しんすけ

2011年から図書館にラーニングアドバイザー（LA）が配置されています。LA配置の本来の目的は経済面での学生の支援でしたが、電子化が進み家庭やオフィスを出ずに図書を借りたり購入したりできる中で、大学図書館は情報を探したり本を読んだりするだけの場所から、議論などを通じて学習する場所になりつつあり、LAの出現は図書館としても大変歓迎すべきことでした。

学生への学習方法や、レポートの書き方、就職活動の進め方などのアドバイスや、身近な問題に関する座談会の開催、図書館のホームページ作りなどの図書館業務の応援が現在の主な仕事で、学生がLAを指名して相談に来るなど利用する学生の評判も良く、またLAも生き生きと活動しています。変化について行くのではなく変化を創り出す人材が求められより主体的な学修が必要になる中、LAの役割も益々重要でエキサイティングなものになると確信しております。さいわい学生が主体的に学修する機会や場所の必要性は広く認識されており、総合図書館の中に新たに完成する語学センターの設備も図書館でラーニング commons のようにして利用できるようになるなど、LAを取り巻く環境には追い風が吹いています。

スポーツや文化的な活動が得意な学生はサークル活動などを足がかりに色々なネットワークを作り学生生活を通じて成長していますが、それらが苦手な友人を作るのも不得意な学生の中には大学が居づらい場所になっている話も

よく耳にします。しかし社会の健全な発展を支えているのはポジティブな人間だけではなく、大学が居づらい場所と感じるようなむしろ不器用な人々の存在であり、そのような学生が大学で意欲を持って勉強し成長できるような環境の不足は社会の大損失につながるのではないかと考えています。それにはまず教職員一人がひとりの学生を勇気づける努力が必要ですが、図書館もLAなどと協力して、学生が主体的な学修能力を高めて成長するのにもっと貢献できるのではないかと考えています。

例えばLAが中心になって（数学や英語の勉強法、手紙の書き方、敬語の使い方、説得のしかたなど）学生が関心を持っているようなあるいは悩んでいるような話題を設定し、ボランティアの教職員や卒業生などを講師に招いてミニ講演会を開催することが考えられます。あまり積極的でない学生は座談会などには参加しづらいと思いますが、講演会だと聴くだけでも良いので気軽に参加できるのではないのでしょうか。さらに大きな講演会とは違い聴衆がせいぜい20人ぐらいで講師もあまり格式張らずそんなに準備もできていないので、教員や職員も自分と同じように悩んでいることまた失敗することが分かり、物事がそんなに思ったように進まないこと、逆に（挑戦にはかならず失敗があり）失敗が恥ずかしいことではないことなどを肌で感じるができます。昔、アメリカの若者が挫折する理由の一つに映画では主人公が手を挙げるとすぐにタクシーが来るのに、現実の世界

ではいくら待っても来ないような経験があるという記事を読んだことがあります。そんなことはこれで無くなります。さらに参加者がLAの活動に興味を持てば、講演会の企画を手伝う内に自身がLAになり、さまざまな企画を通してリーダーに一番大事な交渉能力を養えるようになるというようなシナリオも描くことができます。

期待は大きいのですが、使命感に燃え過ぎてつぶれてしまうことの無いように、できることから始めて、失敗を重ねながら、また最終的に

は専任教員なども加わるなどして、LAの活動がさらに充実し、より多くの学生にLAが利用され、より多くの学生がLAの活動に関心を持つことを願っています。最後に教職員の方々の温かく積極的なご支援をお願いします。

(大学院工学研究科情報・メディア工学専攻教授)



“総合図書館LAと数学教室TAがコラボした今年度前期試験時の様子”

スモールワールド現象

医学図書館長 老木成稔

おいき・しげとし

「ああ、その人なら良く知っているよ。」

「世間は狭いね。」

この時英語で使われるフレーズが "It's a small world!" である。世界が小さいのではなく、大きな世界が密につながっている、ということである。

世界のだれとでも知り合いのネットワークを通じて6人の介在で到達できる、というのを聞いたことはないだろうか（「私に近い6人の他人」という映画があるそうである [1993年]）。もちろんこの表現には誇張があるが、だからと言って、全く無関係な2人の間に100人も介さなければ到達できない、というわけではない。

自然発生的に生まれてくる「知り合い」というネットワークに共通の構造がある、というのが「スモールワールド現象」と呼ばれているものである。

日常用語のスモールワールド現象が今、社会科学だけではなく自然科学も巻き込み、科学の言葉で熱く語られている。人のコミュニケーションのネットワークやインターネット、感染経路などまったく無関係に見える“つながり”を「複雑ネットワーク」という科学用語で解釈しようという壮大な試みである。そこには次のような共通の原理が潜んでいる。

複雑ネットワークはランダムに、均等に繋



がっているのではなく、多数のサイト（ノード）に繋がっているハブと呼ばれるものが必ず存在し（ハブ空港のように）、これが遠くのノードへの到達を容易にしている。また各ノードから出ている繋がり数はノードによって大きく異なる。各ノードを人と考えれば顔の広い人、付き合いの狭い人などがいるということを目指す。新しいつながりは作られては壊され発展していく。もちろん「つながり」であるからには双方向のやり取りである。このようなつながりの多様性がスモールワールド現象を引き起こすネットワーク構造を作り出している。もちろんノードをニューロンと考えればニューラルネットワークの構造を理解する手掛かりとなるし、細胞内の遺伝子や蛋白質と考えると細胞内反応ネットワーク全体に大きな影響を与えるハブとなる物質を見つけることができる。感染経路のハブは感染を有効に終息させるターゲットである。ネットワークの入り組んだ複雑性の中に特徴的な構造を見つけ出せばネットワーク構造を把握でき、いまや Network medicine などという言葉も出てきている。

ここで現在のコミュニケーションを考えると、インターネット上でのコミュニケーションは今後もどんどん発展していくことは目に見えている。一方、生身のコミュニケーションが逆に重要な意味を持つようになってきている。そのようなコミュニケーションの場をどこに求めればいいのか。私達研究者にとっては研究室内のディスカッション、研究会、学会でのコミュニケーションであり、必要性からうまれてきたものである。ところがこのようなネットワークは自分の専門範囲を大きく超えるものではな

く、得られるものもある程度予想できる。スモールワールドネットワークの概念が教えるところでは、一見無関係なところとのつながりがスモールワールド性を獲得でき、未知の世界との架け橋となる。

生身のコミュニケーションと広い視野の獲得には人とのふれあいができる空間的な場の存在が不可欠であり、図書館はそのような要件を備えている。医学図書館の「情報工房」はそのような空間としても利用できる一つの形体である。さらに、多様な人が集まり、つながる場の必要性が高まってくるだろう。今後、図書館の役割が情報をダウンロードする一方向的な役割からアップロードする発信も含めた双方向の場に変容していくことが予想される。集めた情報から新しいものを創造し、それを発信する、という過程は人と人との生き生きとしたやり取りから生まれる。正解も効率も予想できない創造という思考過程を少しでも促進できる場の使い方を探るためにネットワーク思考は新しい考え方の枠組みを提供してくれる。

参考文献

- アルバート・ラズロ・バラバシ：新ネットワーク思考—世界のしくみを読み解く NHK 出版、2002
 増田直紀、今野紀雄：「複雑ネットワーク」とは何か—複雑な関係を読み解く新しいアプローチ（講談社ブルーバックス）、2006
 Barabási AL, Gulbahce N, Loscalzo J.: Network medicine: a network-based approach to human disease. Nat Rev Genet. 2011, 12(1): 56-68.

（医学科 形態機能医科学講座 教授）

越前の近世を解き明かす「小島家文書」の魅力

教育地域科学部社会系教育講座准教授 長谷川 裕 子

はせがわ・やすこ

小島家文書は、1972年4月以来、1976年8月、1989年5月、1997年1月の4度にわたり、小島家当主の小島武郎氏によって福井大学附属図書館に寄託され、さらに2001年1月には三国郷土資料館保管分の追加寄託を受け、2012年2月7日に武郎氏の次男の小島章宏氏によって寄贈された文書群である。総点数6000点を超える膨大な文書群で、時代的にも近世中・後期を中心に、江戸時代初期から昭和初期までの長期にわたっている。

文書を伝えた小島家は、江戸時代には越前国坂井郡野中村（現坂井市三国町野中）の庄屋を務めるとともに、野中村とその周辺村で構成された「野中組」

（年貢納入等のための支配単位）を管掌する大庄屋に任じられていた。小島家の由緒書によれば、豊臣秀吉が行った太閤検地の際に、「居屋敷壺反歩」が諸税免除とされた上、「小八木理兵衛」の名前、「乗鞍（乗馬）・帯刀」が許され、さらに結城秀康の越前入部の際には、「斤量」「納舛」「手鎖」を渡されて、「往古之通」（従来どおり）村々の年貢上納の一切を任されたという。後年に作成された由緒書であるため断定はできないものの、小島家が地域の有力者として古くよりこの地に根を張っていた様子をうかがうことができよう。

そんな小島家に伝来した小島家文書の魅力は、な



小島家石碑



貞享3 (1686) 年「野中村年貢割付状」(No.1227)

んといってもその内容の豊富さにある。まず一つは、小島家文書の3分の1を占める貢租関係の文書である。小島家が居を構えていた野中村周辺は、古くは奈良の東大寺や興福寺の荘園が数多く設置されるなど、越前平野の北西に位置する北陸の一大穀倉地帯であり、江戸時代においても福井藩の財政上重視された地域であった。小島家文書には、野中村はもちろん、大庄屋として実務を担った周辺村の村明細帳や宗門人別帳などの基本帳簿をはじめとして、年貢割付貢状や勘定・収納関係帳簿など、福井藩による村支配の仕組みや、村および「組」単位での年貢収納実務の具体像、大庄屋の役割などを解き明かす基本史料が多数現存しており、越前平野の近世を語る上で欠かせないものとなっている。またこの地域は、兵庫川の右岸に位置し、九頭竜川・三国湊に隣接しているため、米などの物資輸送に関する文書など、従来あまり注目されてこなかった内容のものも多く含まれている。川をめぐる治水や用水に関わる問題・争論に関する文書も散見され、近世の百姓が抱えていたトラブルや、それにとまなう周囲の人々のさまざまな動向（対立の構図や調停の方法など）を生々しく浮かび上がらせている。

さらに興味深いのは、近世百姓の生業や生活・娯楽に関わる文書である。災害・飢饉に際して百姓が要求した夫食米の支給・配分に関する帳簿や、飢饉に耐えうる農業生産の安定化をめざして、農作業の時期や具体的な方法などを書き留めた農業日記には、現代に比べてはるかに生存条件が厳しかった近世社会のなかで生き残るための知恵が詰まっている。当時の人々だけでなく、現代の私たちが学ぶところも多いのではないだろうか。また厳しい社会にあっても、人々は生活のなかに娯楽を忘れてはいない。「禁じられた遊び」であった博奕で処罰される若者もなかにはいるが、江戸時代に流行した「お伊勢参り」の記録をみると、一生に一度の大旅行を存分に楽しむ百姓の姿や、村の一大行事としての伊勢参拝の様相が克明に伝わってくる。

このように、越前のみならず、広く近世史研究全体の進展に資する魅力的な素材を数多く提供する小島家文書は、現在インターネット上に開設された福井大学電子図書館において全点閲覧可能となっている (<http://www.flb.u-fukui.ac.jp/degital.html>)。

ぜひ多くの人にご利用いただき、越前近世史の「謎解き」に参加していただきたい。



天保5 (1834) 年「農業諸事日記帳」(No.508)

福井大学附属図書館所蔵の古典籍(7)

西門蘭溪 『菱実記聞』 —勝山藩小笠原家史料の考証—

留学生センター 膽 吹 覚

いぶき・さとる

越前国勝山藩は、福井県勝山市周辺を治めた譜代の小藩である。関ヶ原の戦いが終わった翌年の慶長6年(1601)、福井藩主結城秀康は家臣の林長門を勝山へ派遣するが、同17年(1624)に長門が罰せられた後は、勝山は福井藩の直轄地となる。ついで貞享3年(1686)には徳川幕府がこれを直轄地となし、代官を派遣して管轄した。その後、元禄4年(1691)に小笠原貞信が美濃高須から来封し、以後8代にわたって貞信の小笠原家が代々世襲し廃藩置県に至る。

本稿で紹介する『菱実記聞』は、勝山藩主小笠原家に関する古記録を蒐集採録し、時に著者がそれを考証し自説を附記したものである。書名の「菱実」は小笠原家の家紋である三階菱に拠る。ただし、この家紋の呼び名については、『菱実記聞』巻之上「御紋之事」に「此御紋御家ニテハ松皮ト唱へ候、世ニハ三階菱ト唱へ、松皮ト申ハ今溝口家ニ用ユルヲ松皮ト申シ候」とあり、当時の小笠原家内では「松皮」と呼ばれていたようである。

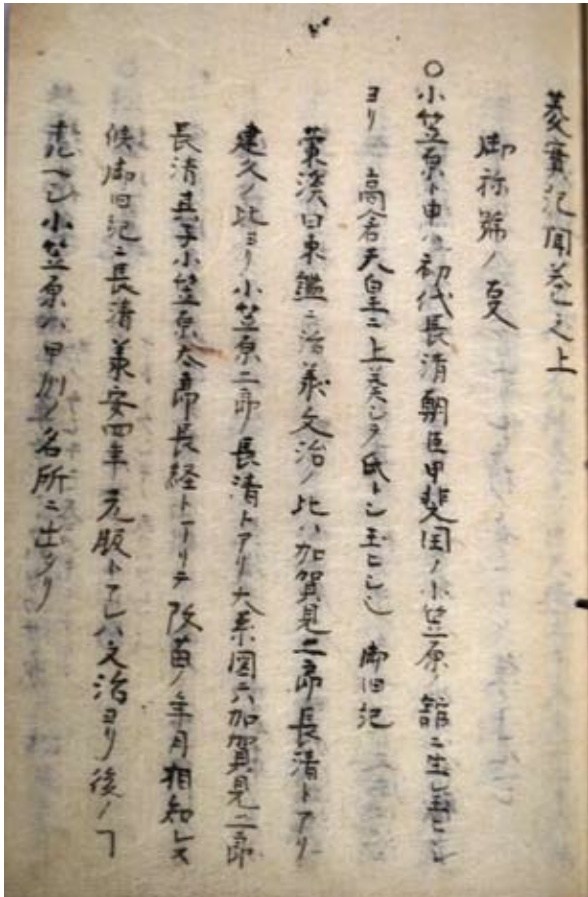
著者の西門蘭溪は江戸時代後期の天明6年(1786)に西門蘭庵の子として生れた人である。名は嘉猷、蘭溪はその号である。彼は小笠原家に侍医として出仕する傍ら江戸の清水浜臣に師事して国学を学び、和歌を能くした。蘭溪の師、浜臣は国学の中でも特に考証学を能くした人であったので、蘭溪の著書にも小笠原家の史料を考証した『菱実記聞』や『万葉集』に詠まれた植物を考証した『万葉草木考』などがある。また、蘭溪は天保版『更級日記』の校訂を行なった人物としても知られている。

本館高島文庫所蔵『菱実記聞』の書誌を記すと以下の通りである。請求記号はH239-RYO。2巻1冊。写本。小本。紺色型押表紙。表紙左肩部の題籤に「聞 全」と墨筆されている(は磨滅に拠り判読不能)。全57丁(第33丁裏より下之巻)。内題は「菱実記聞」。半丁9行。本文は漢



字片仮名交り文(序言は漢字平仮名交り文)。頭注あり。印記は「高島/文庫」「福井大/学図書/之印」。一部に虫損があり、保存状態は良好とはいえない。なお、私は蘭溪の自筆を知らないので、本書が蘭溪自筆本であるか、或いは転写本であるかの判断は見送る。また、国文学研究資料館の日本古典籍データベースによると、『菱実記聞』(DBは『菱実紀聞』)は本学以外では明治大学に所蔵されているようであるが、福大本と明大本との照合も未着手である。

本書の内容は菱実記聞序言(第1丁)に次のように記されている。



菱実記聞序言

上之巻

御称号 源姓 御紋 御同流御分流 御代々
御合戦 御規模 御旧制

下之巻

御城地 荏土御屋布 寺社 長清君方墳銘 開
善寺殿肖像賛 犬追物申状 菱華銘 生卒辦
合計十六件

また、その序言（第2丁）には本書執筆の目的が次のように記されている。

序言

御家ノ事跡ハ御家譜御系図等ニ載テアレドモ、人ニ妄ニ不可見依テ、

松尾大畧 信嶺公御断聞書ノ由

生卒辦 世臣脇屋嶺忠述

高須分限帳

松尾拾遺抄 世臣原成奥述

馬上総州沿革録 脇屋嶺忠

八幡宮菱華銘 同人

抔とて御家中ニ伝来居侍共誤なきにあらず、予もまた君恩を報せん万分之一にもと此書をつゝる事ハなりぬ、尚御旧記或ハ歴世の軍記、并信州伝来の伊奈記、大塔記、龍門寺記等を照合し合せて愚

意を傍へに書加へぬ、見ん人不觉あらば改め給へと冀ふのみ、天保壬年西門蘭溪誌

この序言末尾に記された「天保壬年」は天保3年（1832）で、これは本書巻之下「御城地之事」の「越州大野郡勝山城 当天保三年壬辰年迄御在城百四十二年」という記事とも合致する。ゆえに『菱実記聞』の成立時期は、江戸後期の天保3年と見てよいであろう。天保3年は、蘭溪は52歳である。

前掲の序言に拠ると、小笠原家の歴史については本書以前に『松尾大畧』『生卒辦』などの文献があるが、それらには誤りがないともいえないので、蘭溪があらためて御旧記や歴世の軍記などを史料として載せ、それに自説も付記して本書を成したという。本稿ではその書式の一例として、巻之上「御称号ノ事」を以下に引用する。

○小笠原ト申ハ初代長清朝臣甲斐国ノ小笠原ノ館ニ生レ玉ヒシヨリ高倉天皇ニ上奏シテ氏トシ玉ヒシ也 御旧記

蘭溪曰、東鑑ニ治承文治ノ比ハ加賀見二郎長清トアリ、建久ノ比ヨリ小笠原二郎長清トアリ、大系図ニハ加賀見二郎長清其子小笠原太郎長経トアリテ、改苗ノ年月相知レズ候、御旧記ニ長清承安四年元服トアレバ、文治ヨリ後ノ事ナルベシ、小笠原ハ甲州ノ名所ニ出タリ、

本書には初代長清から第28代長守までの記録が記されている。小笠原家の移封を本書に拠って辿るならば、信州伊奈郡松尾城をふりだしに、武州児玉郡本庄城、総州葛飾郡古河城、同国関宿城、濃州石津郡高須城、そして越州大野郡勝山城に至る。『菱実記聞』下之巻「御城地之事」は高須城から勝山城への移封について「元禄四年閏八月、貞信君ノトキ御所替也、是ハ高須大水ニテ田畑荒蕪タルニヨリ御願在テ勝山工御引移也、御領高如元」と記されており、それが洪水被害によるものであったと記されている。

『菱実記聞』は本学と明治大学の2機関でしか確認されておらず、その伝存は稀であるといってよい。また、管見に従えば本書の翻刻は掲載されておらず、一般には殆ど知られていない文献といってよいだろう。『菱実記聞』はしかし、江戸時代後期の小笠原家に仕えた侍医が記した文献であり、当時の小笠原家内での家紋の呼称など、小笠原家の近くに居た人でなければ知り得ない情報も含まれており、大変興味深い書物である。

私 の 推 薦 書

「光子」の奇妙な振舞い

—ミクロの世界の量子力学—

附属図書館運営委員

橋本 貴明

はしもと・たかあき

原子分子レベルのミクロな世界を支配する法則は、我々の日常経験する世界のものとは随分異なっています。その端的な例を、朝永振一郎著「鏡の中の物理学」（講談社学術文庫）に収められている「光子の裁判—ある日の夢—」に見ることが出来ます。「光子」は「みつこ」ではなく「こうし」で、ミクロの世界での光を表す言葉です。話はこの「こうし」を「みつこ」に見立てて、その奇妙な振舞いについて裁判仕立てで展開します。



鏡の中の物理学

場面は、法廷から始まります。窓が2つある家の中に光子が侵入するという事件が発生します。窓は2つだけで、どちらの窓を通して侵入したかが事件にとって重要となる設定です。「どちらの窓を通して侵入したのか？」という検察官の問いに光子は「私は二つの窓の両方をいっしょに通って室内に入りました。」と答えます。当然、この答えに検察官は心証を害するのですが、ここで弁護人が登場し、実地検証（実験）を踏まえた光子の振舞いから、その証言が正しくミクロの世界ではそのように考えざるを得ないことを論証していきます。

通常我々は、壁に窓Aと窓Bが開いており、外からボールが室内に飛んでくれば、ボールは窓Aか窓Bを通して来たと考えます。しかし、にわかには信じ難いかもしれませんが、ミ

クロの世界では「窓Aと窓B両方が開いている状態で通過した」と「窓Aか窓Bを通過した」とは一致しません。もし、光子が両方の窓で何の痕跡も残さずに通過したとすれば、通過し光子が観測された後にどちらの窓を通ったかを尋ねても、時間をさかのぼって実験的にどちらであるかを決定できません。そもそも問う事に意味が無くなってしまい、その際には、通過後の光子の振舞いは両方通った可能性が「干渉」したものとなります。このようにミクロの世界を支配する法則は、観測と深く関連しており、多分に実証主義的です。

以上は、光子の奇妙な振舞いの解説の解説となり、屋上屋を重ねた感があります。まずは本書をご一読の上、弁護人の論証に耳を傾けてみてください。同著者には、「量子力学I・II」（みすず書房）、「角運動量とスピン」（同）もあり、実験を通して量子力学が発展する様子がオリジナルの文献にまでさかのぼって詳しく述べられています。一度量子力学を学んだ後、読み返すと味わい深いものと思います。



量子力学 I

ミクロの世界の力学である量子力学に関連して、さらに進んでは J.J.Sakurai 著「現代の量子力学（上・下）」（吉岡書店）やディラック著「量子力学」（岩波書店）が挙げられます。



現代の量子力学 (上)



量子力学

前者は、著者による UCLA での講義をまとめたもので、位置と運動量が作用素として交換しなくなる点を原理として持ち込むのではなく、系の並行移動の対称性から考察しているのが特徴的です。後者はみずす書房から原著

“P.A.M.Dirac, The Principle of Quantum Mechanics” の第4版がリプリント版としても出ています。ディラックは量子力学の発展に直接大きな貢献をした物理学者で、初版の序の日付は 1930 年となっており、まだ量子力学が定式化されて間もないころです。その後、超関数として定式化され有名になる δ -関数や、電子を記述するディラック方程式、量子力学の別の定式化である経路積分の端緒が見られるなどアイデア満載です。4版を重ねる古典ですので、原著に親しむのもよいかもしれません。学部のセミナーでは、多くの場合 J.J.Sakurai を教科書として輪読しています。

(大学院工学研究科・工学部物理工学専攻 教授)

L.A.のオススメ

理解！
好奇心！
+ α の
かしこい
スパイス

プロフェッショナル 仕事の流儀

ラーニング・アドバイザー

齋木 健太

「IT 技術者及川卓也の仕事 挑まなければ、得られない」

NHKエンタープライズ (DVD)

技術者や将来マネージャーを目指す学生に是非見ていただきたい一本です。

世界有数のネットサービス企業の開発現場が舞台です。最高峰に近いであろう社内環境や待遇など普段見ることができない会社の中を見るだけでも面白いと思います。

このなかでは、周りにも認められ自分でも優秀だと思っている技術者及川が主人公です。



IT 技術者 及川卓也の仕事 挑まなければ、得られない

彼が自分の能力だけでなく、チームの力を認め信頼して全体で開発していくまでの過程が必見です。何に影響され彼は変化していったのか。わかりにくいかもしれないが注目してみてください。きっと明日への活力のヒントを与えてくれます。

学生の自分にとってチームを動かす機会は少ないのかもしれない。しかし学生生活のどこかできっとそういった機会が現れます。そのときに必要なこと考えなければならないこと、それは及川が部下に問いかけているものの中に若干垣間見せています。一度見て何らかの際の参考にしてみたいはいかがでしょうか。

(電気・電子工学科 M2)

伝える力

池上 彰 著 PHP 研究所版

“日本銀行とはどんなところか、小学生に説明してみてください。”

上に書いた例を実践しようと思うと、これがいかに大変で難しいものかを改めて感じるのではないのでしょうか。

日常や仕事の様々な場面でコミュニケーション能力が求められ、現代のビジネスパーソンには必要不可欠といえる「伝える力」。

この本では「伝える力」について、小手先



伝える力

ラーニング・アドバイザー
佐藤 吏

の技術というよりは、根本となる心構えや前提を、著者の体験を交えて書き表してくれています。

話す相手、読む相手がいてこそそのコミュニケーションやビジネス文書。

相手の立場に立つことの大切さや、自分自身の見つめなおし方や謙虚さの大切さなど書かれています。

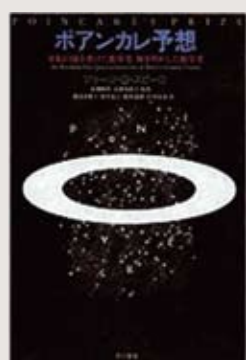
当たり前に見えるかもしれないが、意識して行動をすることで新しい気づきを得ることができると思います。

「伝える力」について、新しい気づきの手助けになる本であると思うので、ぜひ一読してみてください。 (理工工学科 M1)

ポアンカレ予想

世紀の謎を掛けた数学者、解き明かした数学者
ジョージ・G・スピーロ 著 早川書房

ポアンカレ予想は、およそ 100 年前に天才数学者のポアンカレによって提唱された予想である。数学におけるトポロジー（位相幾何学）という分野の予想であり、多くの数学者の努力にもかかわらず、長年その証明が為されなかった。トポロジーは物理学や物性工学、特にトポロジカル絶縁体などの先端分野で応用されるなど、現代科学には欠かすことのできない数学分野である。したがって、ポアンカレ予想



ポアンカレ予想

ラーニング・アドバイザー
平 貴 仁

の重要性は非常に高く、最も重要で、最も難易度が高い未解決問題に指定されていた。この本はポアンカレ予想を提唱したポアンカレから、その証明を成し遂げたペレルマンまでの、この問題に携わった数学者の物語である。歴史的な背景や、数学的に重要な概念、特にポアンカレ予想を解決するにあたってブレイクスルーとなった「リッチ・フロー」についても可能な限り分かりやすく解説しており、理工系ならずとも楽しんで読むことができる。ポアンカレ予想証明の業績により世界的に有名なフィールズ賞を受賞したにも関わらず、それを辞退したペレルマンの人柄や人間性についても触れられ、学問分野以外での好奇心も駆り立てられる 1 冊である。 (理工工学科 M2)

研究室で役立つ有機実験のナビゲーター

ラーニング・アドバイザー
中尾 義 則

James W. Zubrick [著] 丸善

有機合成系の研究室への配属が決まったらまず何をしますか、講義で使っていた有機化学の教科書をもう一度読み返したり、学術論文を読むために専門英語を勉強したりしましょう。机上の基礎的な勉強も大事ですが、研究は実験をしないとデータが出ません。実験を行うために必要な知識や技術を学ぶには、まず『実験のナビ



研究室で役立つ
有機実験のナビゲーター

ゲータ』を読むべきだと思います。この本では、得られた大切なデータを書き残す実験ノートの書き方から、化学反応を行うためのフラスコや還流管や三方コックなどの器具や実験装置の組み立て方やノウハウをしっかりと学ぶことができます。例えば、ガラス器具を扱う際の注意点、減圧蒸留の器具の組み立て方、カラムクロマトグラフィーによる単離精製、よくある失敗などの実例を基に筆者の口調で面白く詳しく解説しています。実験器具の組み立て方が分からない、この装置の使い方が分からない、いまさら聞けないという人もこれを読めば理解出来ます。

「卒論・修論を書き上げるための理系作文の六法全書」

斎藤 恭一 著 みみずく舎

皆が必ず通る道である卒業論文、生まれて初めて書く理系作文はとて難しいものです。この『理系作文の六法全書』はそんな、卒業論文を書き始める人に読んでもらいたい一冊です。卒業論文を書き始める時は我流で始めるのもいいですが、一度この本に目を通してみてください。まずは人の文章を真似してみることから始めてみてください。人の文章は、



卒論・修論を書き上げるための
理系作文の六法全書

その人の特徴が出ますが、基本的なルールは同じです。この本は理系作文の基本ルールや風習、から応用まで様々な内容が書かれています。さらに基本的なルールや風習を6つの章に分けて分かりやすく解説し、正しい理系の文章を学ぶことが出来ます。前半の章は正しい理系の文章を詳しく解説、後半の章で演習問題を解くことで理系作文を書く技術がしっかりと自分のものになります。理系作文を書く技術を自分のものにしたら、後は実践あるのみです。卒業論文だけではなく、日常のレポートや課題にも使えます。

(材料開発工学 M1)

「統計でウソをつく法 —数式を使わない統計学入門」

ラーニング・アドバイザー
田中 侑己

ダレル・ハフ 著 高木 秀玄 翻訳 講談社

新聞のグラフ、テレビのパネル等の統計データは、事実の証明として頻りに用いられます。しかし、この統計データは事実であっても、統計データの見せ方によって与える印象が違います。例えば、グラフの目盛の幅が変化しただけでそのグラフの印象がかなり変わります。そのような印象変化のトリックを用いることにより、統計データを自分の都合のよいように見せることが出来てしまいます。そして、トリック



統計でウソをつく法

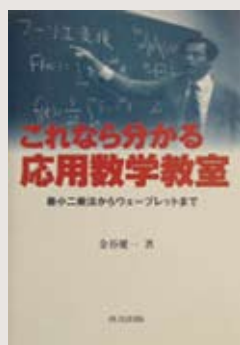
を用いた統計データは日常生活に多く存在します。本書ではそのような統計データの印象操作法、言い換えると、統計で人を騙す方法を紹介しています。統計で人を騙す方法を知ることとは、裏を返せば、統計に騙されないための予防線を張ることにつながります。新聞、ニュースを良く見る方は統計のトリックに騙されないように本書を読むことをお勧めします。

また、本書は小学校レベルの数式のみで解説しており、また、難しい専門用語を用いず平易な文章で解説しており、数学が苦手な人でも気軽に読むことが出来ます。

「これなら分かる応用数学教室 —最小二乗法からウェーブレットまで」

金谷 健一 著 共立出版

本書を読んでみて、画像処理、信号処理を初めて勉強、研究する方は是非とも読むべき一冊だと深く感じました。本書は「最小二乗法」、「直交関数展開」、「フーリエ解析」、「離散フーリエ解析」、「固有値問題と2次形式」、「主軸変換とその応用」、「ウェーブレット解析」の計7章となっており、それぞれの章がつながりを持っていて、とても読みやすい構成となっています。そして、この本の、



これなら分かる
応用数学教室

最大の魅力は、解説が懇切丁寧で、高校数学レベルで容易に理解できる内容であることです。さらに、理解度チェックや理解を深めるためのツールが豊富にそろっています。例えば、随所に理解度チェックのための演習問題があり、演習問題の解き方も今までに見たことのないような徹底的な丁寧さで解説されています。また、学習した内容の復習、利用例が先生と生徒のディスカッションという形式で随所に挿入されており、生徒を自分と重ね合わせるにより深い理解を得られる工夫がなされています。

(情報メディア工学科 M1)

『絶望ノート』
『世界の終わり、あるいは始まり』
『葉桜の季節に君を想うということ』

ラーニング・アドバイザー
西川 真代

歌野 晶午 著

歌野晶午著のミステリー三冊を紹介します。『葉桜の季節に君を想うということ』は、靈感商法事件に巻き込まれる私立探偵の物語です。「絶対に最後の結末を先に見ないで読んで」と友人に紹介されて読み始めた一冊ですが、最後で「騙された」という印象が強く残る一冊です。そして、『絶望ノート』は、「いじめ」を受ける男子中学生の日記を中心に構成された一冊です。重いテーマを持つ物語ですが、終盤に驚愕する展開が描かれています。『世界の終わり、あるいは始

まり』は、連続児童誘拐殺人事件が発生し、その被害者の保護者の名刺を、小学6年生の息子の部屋から主人公が発見する物語です。これは上記の二冊とは異なり、中盤トリックが仕掛けられています。三冊とも、もう一度ページを戻って物語がどのように進んでいたのかを確認したくなります。普段いかに「先入観」を持って読書をしているのか、と感じさせられる三冊です。

(教科教育専攻 M1)



絶望ノート
幻冬舎



世界の終わり、
あるいは始まり
角川書店



葉桜の季節に
君を想うということ
文藝春秋

ディスカバリーサービスで 学術情報を探す

インターネットで調べものをする時はGoogleをお使いでしょうか？

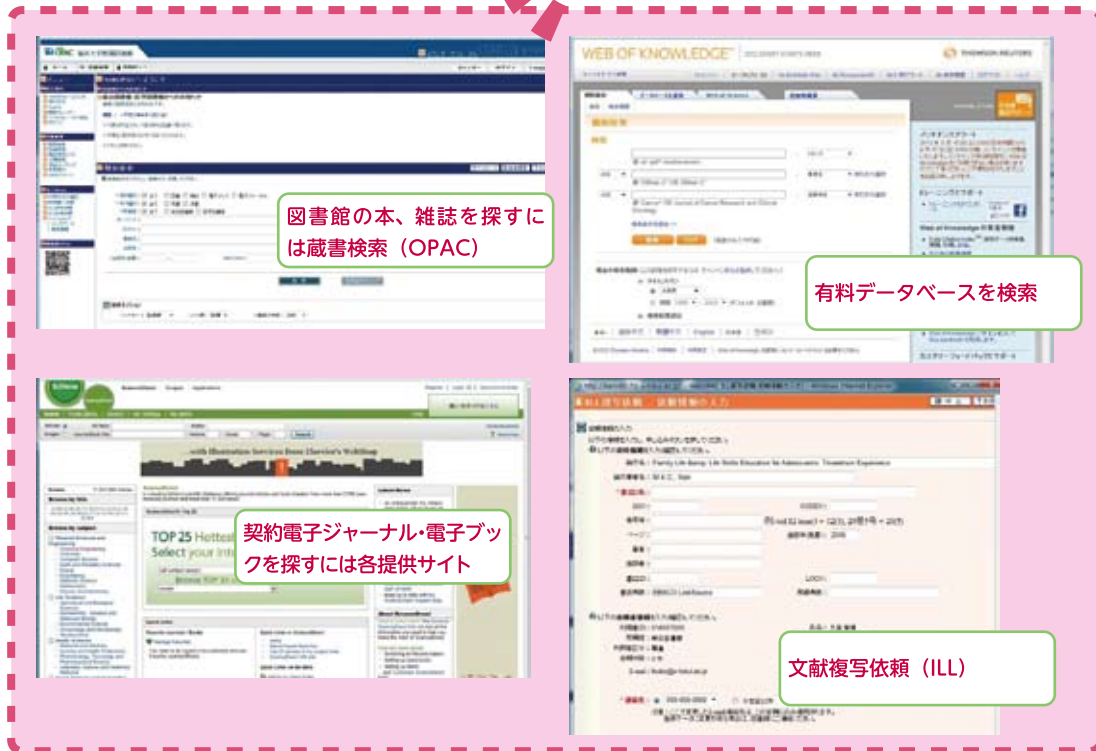
福井大学附属図書館は、2012年10月よりディスカバリーサービスを運用開始いたしました。

ディスカバリーサービスとは、図書館が提供している情報も含めて、質の高い情報をGoogleのように一度で検索でき、Amazonのようにビジュアル化された画面や内容がコンセプトのサービスです。「何から探したいのかわからない」という場合は、図書館ホームページのトップの「福井大学Discovery Service」の検索窓から利用してください。



図書館で所蔵している雑誌や書籍だけではなく新聞記事、企業情報、会議録、政府文書、楽譜、CD/DVD 等といった様々なコンテンツを収録し、日本語のコンテンツは雑誌記事索引や CiNii, JAIRO, J-STAGE 等が搭載されています。

これらのすべてのリソースを一つの窓で検索



福井大学附属図書館では、様々な学術情報を提供しています。

図書館に所蔵している本、雑誌を探すには蔵書検索 (OPAC) で検索、文献等を探すには各有料データベース、契約電子ジャーナル・電子ブックの検索、検索等をして図書館で手に入らない場合は文献複写依頼 (ILL) を依頼するというように、探したい情報によって使い分ける必要がありました。

検索画面の説明を簡単にします。ディスカバリーサービスは、多くの情報を検索しますので、第一に全文が読めるかどうか、第二にその資料が図書館に所蔵されているかどうかを見て、最後にPC上で本文が読めなくて、図書館にも所蔵されていない資料はILLで依頼すると云う動きを無意識に実現できるようにしています。

簡単な検索語で検索しますと、大量の検索結果が返ってきます。必要に応じて左カラムにより絞り込みをおこなってください。

検索結果は、Google のように関連度順で表示。「Relevance 並べ替え」で日付順に変更することができます。

全文：検索結果をインターネット上で本文を読める論文等に限定して検索。
 OPAC：福井大学附属図書館の書籍・雑誌に限定して検索。
 査読：査読誌ないし Peer Reviewd 誌の論文のみを検索。

- 全文へのリンク
- フルテキスト閲覧可
- 本学の所蔵を確認
- ILL を依頼する
- PDF 全文 等々のリンクが表示されます。

出版物タイプや主題・出版物名等、提供リソースにより絞り込み可能です。

ウィジェット
 ・県内横断検索、国会図書館サーチなどの検索結果



Q：参考文献を調べる場合など、絞り込むのが面倒なのでは？
A：確かに、適切なデータベースなどを使った方が早く絞り込めるかもしれませんが、ただ、適切な絞り込みをおこなえば、遜色はありませんし、絞り込む過程で関連の文献を眺めてください。
新しい発見があるかもしれません。それがディスカバリーサービスです。

附属図書館展示企画 2012

附属図書館では所蔵資料の公開と教育・研究活動の紹介を目的にさまざまな企画展示を行っています。

平成 24 年 4 月

新入生のための展示 “図書館へようこそ”

新入生が図書館を利用するにあたって、おすすめ本や図書館のプロモーションビデオの上映、クイズラリーなど、楽しく図書館を知ってもらおうという展示をしました。昨年と同様“コトノハメッセージ”として大学生になっての夢や希望を書いた葉の形のメッセージカードを展示しました。



平成 24 年 5 月 25 日 (金) ~ 6 月 7 日 (木)

越前国坂井郡野中村 大庄屋 小島家文書寄贈披露展

小島家文書は福井県坂井市三国町野中出身の小島武郎氏が、1973 年 5 月以来、数度にわたって福井大学附属図書館に寄託されていたものを、2012 年 2 月 7 日次男の小島章宏氏のご厚意により寄贈された近世文書である。寄贈を記念して行った展示である。小島家文書はインターネットでも公開されている。



平成 24 年 7 月 19 日 (木) ~ 8 月 6 日 (月)

水のペットボトル展

福井県大学連携リーグ連携企画講座「博物館の楽しみ方 2011」の第 1 回講座にお招きした栗原祐司氏から譲り受けた「全国各地で収集された水のペットボトル 100 本余りを使った展示で、福井大学の「博物館資料論」の受講生 9 名が取り組んだものである。ペットボトルの展示だけでなく水に関する環境問題なども取り上げられた。



平成 24 年 8 月 8 日 (水) ~ 9 月 28 日 (金)

「行ってみんけ? 知の泉」展

オープンキャンパスの日から開催し、来場した高校生に福井大学を知ってもらうため、研究室などの学生・職員と図書館職員が協力し、本学の研究・教育活動を紹介した。オープンキャンパス当日は図書館のラーニングアドバイザーによる展示の説明や館内ツアーも行われた。



平成 24 年 10 月 21 日 (日) ~ 10 月 26 日 (金)

総合図書館貴重資料展

総合図書館が所蔵する山川登美子、W.E. グリフィス、橘暁覧、松平春嶽関連の資料を展示した。10 月 21 日は福井大学きてみてフェアが開催され、総合図書館では展示と“ペーパークラフトをつくろう”という企画が催された。



医学図書館ミニ展示 2 部作

- 7 月 総合診療医って知っていますか?
- 10 月 山中氏 ノーベル医学・生理学賞受賞!



医学図書館 NOW!!

医学部 NOW !!

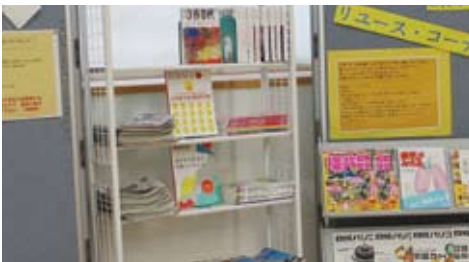


- ・本学附属病院においてロシアから受け入れた脳腫瘍女児の手術成功 (2012年12月)
- ・附属病院医師、看護師による「がん診療最前線」シンポジウムの開催 (2013年1月)
- ・高エネルギー医学研究センター准教授が学会賞受賞 (2012年9月)
- ・東日本大震災の被災地で本学学生がボランティア活動 (2011年～)

挙げればきりが無いほど、医学部の様々な活躍が新聞各紙を賑わせて (?) います。一人暮らしで新聞を取っていない…そんなあなたも大丈夫！医学図書館1階ラウンジに、医学部に関連した新聞記事を掲示しています。いつも教わる先生方や友人、病院のスタッフの方々が載っているかもしれません。

掲載された新聞記事を通して、皆さんの世界が広がれば幸いです。ご来館の際には是非足を止めてみてください。あんな記事が載っていた、と教えていただくことも大歓迎です。

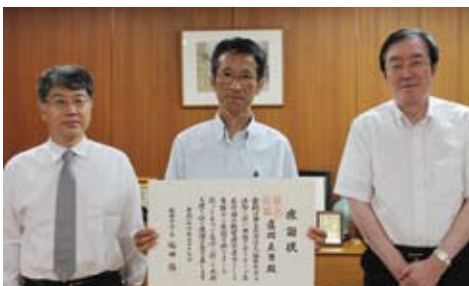
本のリユースコーナーを設置しました



不要になった教科書や、もう使わないけど誰かに読んでほしい本など、譲りませんか？医学図書館では、1階ラウンジに本のリユース・コーナーを設けました。(期間限定) 置いていくのも、持っていくのも自由です。もちろん、同時に両方しても大丈夫！手続きは全くいりません。※詳細は図書館HPをご覧ください。

<http://www.flib.u-fukui.ac.jp/news/detail.html?id=473>

医学図書館への寄附金に対する感謝状贈呈式が行われました



平成 24 年 7 月、盛岡正男氏（福井大学医学部後援会長）から、医学図書館の学生用図書の実充を目的とした寄附金が贈られました。これを受けて 9 月 19 日、盛岡氏に対する感謝状の贈呈式を行いました。

贈呈式では、福田学長から感謝状の贈呈があり、続いて盛岡氏より、亡きお兄様への思い出とそれにつながる医学部生への期待をこめた挨拶がありました。最後に、学長から盛岡氏に対して感謝の辞が述べられました。

福井医科大学名誉教授 伊崎公德先生(精神医学)から「名著復刻全集」140冊が寄贈されました



本の一部と先生近影

夏目漱石「こゝろ」、芥川龍之介「羅生門」、森鷗外「雁」…名前は知っているけれど、文豪の作品を実際に読んだ方は少ないのではないのでしょうか。

日本近代文学の復刻版なので、発刊当時の雰囲気も味わえ、思わず手に取りたくなる本ばかりです。整理できたものから配架いたします。しばらくお待ちください。

■ 主な行事等

2012.06.29 (金)

附属図書館運営委員会

- ・平成 24 年度附属図書館予算配分について
- ・附属図書館年度計画について
- ・附属図書館自己点検評価改善表（中間報告）について

2012.07.18 (水)

医学図書館運営小委員会

- ・平成 24 年度医学図書館予算配分（案）について
- ・今後の資料整備方針 ～電子ジャーナル、データベースについて～

2012.07.26 (木)

総合図書館運営WG

- ・平成 24 年度総合図書館予算配分（案）について
- ・今後の資料整備方針 ～電子ジャーナル、データベースについて～

2012.10.26 (金)

日本医学図書館協会北信越地区会例会

- ・平成 26 年度地区会事務局、研修会担当館の選出
- ・診療ガイドライン WG 要員について
- ・承合事項（利用者のマナーについて、利用者を増やすために実施されていること）

2012.12.13 (木)

附属図書館運営委員会（メール持ち回り）

- ・平成 25 年度 年度計画について

2012.12.14 (金)

XooNlps 研究会 2012 北陸福井ワークショップ

- ・「つくる」「うごかす」「入力する」－新 XooNlps で機関リポジトリ構築を体感する－